

# 教育行政及び教育指導の重点方針(平成25年度)

大分県教育委員会

## 改革の一層の推進：「芯の通った学校組織」の構築

県教育委員会では、平成20年の事件以後、二度とこのようなことが起こらないよう、責任と権限が明確で透明性の高い教育行政システムの確立を目指して徹底的な改革を進めています。

今後、学校を取り巻く様々な課題に適切に対応しながら、学力・体力の向上など教育の実を持続的・発展的に上げていくためには、全ての学校が、校長のリーダーシップのもと、目標達成に向けて組織的に取り組む学校であることが必要不可欠です。

このような学校改革を進めるため、県教育委員会では、平成26年度末までを最重要取組期間として、次の2つが実現した「芯の通った学校組織」の構築を推進していきます。

### 目標達成に向けた組織的な取組を行う学校

- ・重点化・具体化された目標・取組と検証可能な指標のもと、短期のPDCAにより取組の検証・改善を進める。また、それらを保護者・地域住民等に公表する。
- ・校長のリーダーシップのもと、目標達成に向け、学校全体で組織的に学力・体力の向上、いじめ対応などに取り組む。

### 基盤となる学校運営体制の確立

- ・校長など管理職のもと、ミドルリーダーたる主要主任等が、各分掌の責任者としてリーダーシップを発揮する。
- ・管理職と主要主任等から構成される「運営委員会」が学校運営の中核となる組織として機能する。

## 重点項目

県教育委員会では、教育行政の総合的な指針である「新大分県総合教育計画」(計画期間：平成18年～27年)に沿って取組を進めています。

本計画中、平成25年度においては、特に以下の事項に重点的に取り組みます。

### I 教育の再生と県民の期待に応える教育行政の推進

#### <県民の期待に応える教育行政の推進>

- ・地域別意見交換会や県民フォーラムなどにより、開かれた教育委員会を推進するとともに、県・市町村・学校間の意思疎通の徹底を図る。

[H24とH25で全ての地域での地域別意見交換会・県民フォーラムを開催]

### <県民総ぐるみによる教育の推進>

- ・公民館等を拠点にした「協育」ネットワークを県内全域に広げ、保護者や地域住民等による学校や地域での学習・体験活動、家庭の教育力向上に向けた取組等への支援を充実する。

[「協育」ネットワークの小学校カバー率：87% (H24) ⇒91% (H25目標値)]

### <人権教育の充実>

- ・「人権教育の指導方法等の在り方について」[第三次とりまとめ](簡易版)を活用し、人権教育の日常的な実践を推進する。

[体験的参加型学習を受講した児童生徒の割合：89.0% (H23) ⇒92.2% (H25目標値)]

## II 子どもの挑戦や自己実現を支える学校教育の推進

### <義務教育における基礎的・基本的な学力の定着>

- ・学校が、全国学力・学習状況調査の結果等を活用して課題を把握し、目標や取組内容、評価指標を設定の上、組織的に学力向上対策を進めるよう促す。
- ・習熟度別少人数指導教員の配置や小学校高学年における教科担任制の導入などにより、一人一人に応じたきめ細かな指導を充実する。
- ・校内研修にマネジメントサイクルの手法を取り入れて、各教員の日常的な授業改善や校内研修の成果を反映した教育課程の改善が積極的に行われるよう、校内研修の充実を図る。
- ・司書教諭等を核とした学校全体での学校図書館活用教育の指導体制を確立するとともに、学校図書館アドバイザーによる助言、司書教諭や学校司書等を対象とした研修の実施により、学校図書館活用教育の一層の充実を図る。

[大分県学力定着状況調査における学力が全国平均以上の児童生徒の割合：

小5 56% (H24) ⇒ 65% (H26目標値)、中2 52% (H24) ⇒ 65% (H26目標値)]

[大分県学力定着状況調査における低学力層の児童生徒の割合：

小5 8.6% (H24) ⇒ 7% (H26目標値)、中2 9.0% (H24) ⇒ 7% (H26目標値)]

[全国学力・学習状況調査における全国平均を超えた教科の割合：

小6 20% (H24) ⇒ 75% (H26目標値)、中3 40% (H24) ⇒ 75% (H26目標値)]

### <子どもの体力の向上>

- ・学校が、子どもの体力・運動能力等を把握し、各学校の体力課題に基づく具体的な目標を設定して学校全体で取り組む「一校一実践」の取組を推進する。
- ・体育専科教員等の優れた実践事例の普及を図るとともに、体育授業や運動部活動に地域スポーツ人材を積極的に活用し、授業の充実や担当教員の指導力の向上、運動部活動の適正化・活性化を図る。

[体力・運動能力調査で県平均が全国平均以上の種目の割合：

21.3% (H24) ⇒42.2% (H25目標値)]

### <時代の変化を見据えた教育の展開>

- ・世界にも挑戦できる人材や理数系人材の育成を図るため、次世代リーダー育成プログラムの実施や海外留学支援、科学の甲子園等への参加支援などを行う。
- ・大学キャンパスへの1日留学や国際交流キャンプの実施などにより、子どもが外国の文化や価値観に直接触れる機会を創出する。

[各界のリーダーとして活躍したい生徒の割合：2.1% (H24) ⇒3.0% (H25目標値)]

[小学校高学年において留学生等との国際交流活動を実施した学校の割合：

17% (H24) ⇒25% (H25目標値)]

### <豊かな心の育成>

- ・子どもの読書活動を推進するため、学校司書の1校専任配置やボランティアを活用し、小学校図書館への子どもと本をつなぐ大人の常時配置を進める。
- ・不登校傾向にある子どもを支援するため、「心のふれあいキャンプ」を行うとともに、子どもたちの心を育む体験活動プログラムの開発・実践や普及を図る。

[読書活動を週1回以上実施している学校の割合：

小学校96.9% (H24) ⇒100% (H25目標値)、中学校50.4% (H24) ⇒ 94% (H25目標値) ]

### <幼児教育の充実>

- ・幼児教育から小学校教育への円滑な接続のため、小学校と幼稚園・保育所等との教職員合同研修会や幼児児童交流活動を充実する。

[幼稚園・保育所との交流及び連絡会を実施している小学校の割合：

74.7% (H24) ⇒85% (H25目標値) ]

### <高校生の進学力・就職力の向上>

- ・生徒対象の合同セミナーの開催や教員研修の充実により、生徒の進路希望に応じた進学力の強化を図る。
- ・専門高校等の生徒を対象に、産・学と連携した体験学習やコンテストの開催等により、専門的な知識・技術の習得と職業資格の取得を推進する。
- ・キャリア教育の一層の推進に向け、企業理解等による教員の指導力向上や、外部人材の講話等を通じた生徒の職業観・勤労観の育成を図る。

[大学志望達成率：88% (H24) ⇒90% (H25目標値) ]

[新規高卒者就職内定率：98.7% (H23) ⇒99% (H25目標値) ]

### <一人一人の障がいに応じた指導の充実>

- ・妥当性・具体性のある個別の指導計画や教育支援計画の作成及び活用を推進し、個に応じた指導等の目標、内容、方法の工夫・改善を図る。
- ・高等部生徒の一般就労を促進するため、特に知的障がい特別支援学校で地域の関係機関や事業所等とのネットワークを構築するとともに、進路指導主任を核とした組織的な進路指導を推進する。

[知的障がい特別支援学校高等部生徒の一般就労率：16.1% (H23) ⇒26% (H25目標値) ]

### <地域の力を活かした学校づくりの推進>

- ・学校運営の継続的な改善や保護者等の理解と参画を得た学校づくりを進めるため、学校評価の公表や第三者評価の導入を進める。

[ホームページなどで地域住民に学校評価を公開している割合：

小学校 75.7% (H23) ⇒88.0% (H25目標値)、中学校 58.6% (H23) ⇒82.9% (H25目標値) ]

## Ⅲ 子どもの安全・安心の確保

### <安全・安心な学校づくりの推進>

- ・子どもの安全・安心を確保するため、非構造部材の耐震対策も含めた学校施設の耐震化、老朽化対策及び防災機能強化を進める。

[公立小中学校の耐震化率：79.0% (H24) ⇒89.5% (H25目標値) ]

### ＜いじめ・不登校等問題行動への対応の強化＞

- ・いじめ・不登校等への対応のため、スクールカウンセラーの配置拡充や24時間いじめ相談など教育相談体制の整備充実、いじめ問題への的確な対応に資する教員研修の充実を図る。
- ・解決が困難ないじめへの対応を支援するため、スクールサポーターや警察との連携を進めるいじめ対策連絡協議会やいじめ解決支援チームを設置する。

[いじめの解消率：73.4% (H23) ⇒76.0% (H25目標値)]

[不登校児童生徒の復帰率：32.5% (H23) ⇒43.4% (H25目標値)]

## IV 生涯学習と文化・スポーツの振興

### ＜全国高等学校総合体育大会の開催＞

- ・本県を中心として北部九州4県で開催される全国高等学校総合体育大会において、本県高校生の活躍と円滑な運営に加え、県民あげてのおもてなしの心のこもった大会を目指す。

### ＜文化芸術活動の推進＞

- ・子どもの豊かな感性を育むため、学校や公民館等での出前美術鑑賞授業の実施や幼児等を対象とした親子造形ワークショップを開催する。

[参加者数：805人 (H24) ⇒1,120人 (H25目標値)]

## V 教育基盤の整備

### ＜教職員の学校マネジメント能力の向上＞

- ・教育事務所の効果的・継続的な学校訪問等を通じて、校長の組織的な学校運営を支援する。
- ・教育センターの実施する研修内容の見直しを行い、新たに学校マネジメント等に係る実践的な研修を実施するなど、研修内容の充実を図る。

[教育事務所による全学校への年3回以上の学校訪問の実施率：100% (H25目標値)]

[マネジメント研修の要素を取り入れたセンター研修の割合：35% (H24) ⇒80% (H25目標値)]

### ＜教育の情報化の推進＞

- ・本年2月に策定した「大分県教育情報化推進戦略2013」に基づき、教員がICTを活用して「わかる授業」を実践するため、教育の情報化を推進する。

[コンピュータを使って指導できる教員の割合：61% (H24) ⇒67% (H25目標値)]

### ＜高等学校の再編整備の推進＞

- ・高校の再編整備の成果や課題等を検証し、学校運営等に反映させるとともに、後期再編整備計画の着実な推進を図る。

### ＜教職員が教育活動に専念できるような支援の充実＞

- ・疾病や心の不調の早期発見・早期対応のため、定期健康診断、精密検査の受診率の一層の向上を図るとともに、ストレス診断の実施率100%を目指す。

[精密検査受診率(県立学校教職員)：81% (H23) ⇒90% (H25目標値)]

[ストレス診断実施率(県立学校教職員)：70% (H23) ⇒100% (H25目標値)]